

事業実績書

事業名		寺子屋バイリンズ
場所		レンタルスペース POPLY
期間		令和6年10月1日 ～ 令和7年3月1日
	日程	実施項目・作業項目
事業内容	10月	※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など) ・教室の宣伝ポスターを作る ・教室のホームページを立ち上げる ・「広報ぬまづ」の12月号への掲載申請をする ・教室を実施する施設を予約する ・教室で実施するアクティビティの仮決定
	11月	・教育委員会に問い合わせ、沼津市にある各学校にチラシを配布 ・沼津市の実施している「日本語教室」にて、 ・加藤学園暁秀初等学校にてチラシを配布
	12月	・清水町にある小学校に問い合わせ、学校にチラシを置かせてもらう ・沼津市の地区センターにチラシを置かせてもらう ・沼津国際交流フェアにてチラシを配布 ・三島市の団体にイベントの情報を流してもらう
	1月	・参加者をしめきる ・教室の最終確認を行う（使用するスライド作り・アクティビティ内容の決定）
	1/19	・1/19に教室を実施
	2月	・参加者にアンケートを送る ・アンケート分析・教室の振り返り
事業効果		※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を、具体的な数値を用いて記載してください。 教室参加者数…計2組（1日のみの実施） アンケート結果は別紙のとおり アンケート結果から、「外国にルーツを持つ子供たちが、日本に愛着を持つようになる」「日本の文化を広めることができる」以上の二つの事業効果を確認できた一方、参加者不足により、効果の客観的判断素材になり得るとまでは言えません。
自己評価		※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。 自己評価 ★☆☆☆☆ 1回の教室実施は行えたものの、改善の余地が多く見られました。外国人児童や親同士のコミュニティを広げる、といった事業効果は、参加者不足により計ることができず、また、地域の活性化という点においても、同様なことが言えます。 以上から、この事業における事業効果は非常に限られた、薄いものになってしまったと結論づけることができます。事業の失敗は、参加者募集の段階にあると考えられ、より効果を期待できる参加者募集方法を用いる必要があったと言えます。

今後の活動予定	※ 補助金を利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。 事業の見直しを行う ①参加対象 ・小学生低学年に絞ってしまうと、対象者の母数が少なくなってしまう可能性 →高学年の方が、低学年より外国人児童の生徒数の割合が大きいことが多かった ②募集方法 ・沼津市内には、英語圏（所謂欧米圏）だけでなく、アジア圏からの移住者が多い →英語のポスターや宣伝では効果が薄かった可能性（伝わらなかった） ＝様々な言語でのポスター作成を行う ・学校に置いてもらうだけでは効果が薄い可能性（生徒が自ら取りにいく確率は極めて低い） →実際に、参加者の二組はどちらも知人の紹介から教室の存在を知った（アンケート） →生徒に一人一枚ずつ配るぐらいのチラシの量を用意 ・日本語教室や KUMON 等の塾に、募集の広告を呼びかけてみる →実際に参加者の一組は、KUMON にて日本語を学習していた ③使用する施設 ・今回の施設よりも安価な施設でも十分に実施可能であることがわかった 例：地区センター、プラザヴェルデ等 ・場所がわかりにくい →路地裏にあるため、見つけるのが困難 ④事業の根本的な需要のリサーチ ・沼津市、そして周辺の街の在籍外国人児童数を調べ、事業の需要の再確認を行う →確認後、もし十分なニーズを確認できるのであれば、事業を立て直し、十分に改善を施した後で、自己資金にて再度教室を開催してみる ・仮に、ニーズが薄いとされた場合、新たな需要を探し、新たな事業を模索する
----------------	---